

発言者	発言要旨
	■開会
	<議事> 熊本市文化芸術推進基本計画(案)について 事務局説明
浪床委員	パブリックコメントが0件だったということについて、市民の関心の問題なのか、情報発信の問題なのか、なかなか伝わりにくいのか等、どのように分析しているのか。せっかくの施策や東京藝術大学と連携した取組なので、市民に伝わるのが大事だと思う。
事務局	概念的なので意見を出しにくかったのかもしれない、と思っている。計画書は長いため、概要版パンフレットや広報動画を制作中である。動画は区民課窓口やサンピアン(商業施設)等で放映予定であり、今後も計画内容や市の文化芸術施策を市民に広報・周知していく。
佐藤委員	賛否両論があるような表現活動(例えば、政治的・性的等の表現)や美術界のハラスメント問題、木で作った作品が腐って余計に税金がかかる、イベントで子どもが亡くなる等、危機管理についてもアーツカウンシルのような行政と一定の距離があるところで協議する必要があるのではないか。行政が危機管理をすると表現活動は小さくなってしまうと思う。
西島委員	P36の推進会議について、目指す方向はアーツカウンシルなのか。他都市では文化と観光的なものを含めた財団があるが、熊本市は別の方法をとってきている。 佐藤委員の話したような内容は、会議体ではなく組織でやっていくべきだと思う。
山下委員	P35のプラットホームイメージ図に花畑広場等の公共広場の存在を感じられないのが残念に感じる。
喜久山委員	熊本市では具体的なプラットフォームの体制の想定があるのか。
事務局	今はまだない。他都市の状況をホームページ等で調べる等しており、来年は聞き取り等をする予定。
山下委員	経済産業省の補助金を活用し横浜市芸術文化振興財団と「アートと都市と公共空間」というプラットフォームをホームページ上につくった。その中でも発表しようと思っているのだが、熊本市のやろうとしていることはとても先進的だと思う。例えば、熊本市現代美術館でされた第8次総合計画展はグッドデザイン賞をとっていて、いい意味で前例のないことをしているように思う。前例を調べていくことももちろん大事であるが、熊本市バージョンを生み出すのも大事だと思う。
喜久山委員	プラットフォームづくりは、人材や素材を精査していかないと、破綻したり思わぬ方向に行ったりすることがある。かなり慎重にしないといけないと思う。
喜久山委員	推進会議にどんな分野の方がいたらいいと思うか。
小堀委員	先日、熊本大学のシンポジウムがあって、市の職員が東京藝術大学のD00R研修を受けていると聞いた。せっかく受講しているならば、D00R研修を受けた市の若手職員などどうか。
浪床委員	推進会議体制に文化顧問と書いてあるので日比野さんも入るということだろうが、別途、東京藝術大学の先生等も入るということか
事務局	東京藝術大学＝教育機関になるが、そこも踏まえて誰が委員として入るか検討していく。設立は、来年度すぐではなく、年度途中を予定している。
浪床委員	先日、熊本大学と東京藝術大学が連携協定を結ばれたので、教育機関とはそういうところをイメージされているのかと思ったが、連携協定とこの計画との関わりはないのか。

発言者	発言要旨
事務局	まだ、教育機関について、具体的な想定はない。
西島委員	この計画の目玉は「横断的な施策」があることであり、文化芸術だけでなく様々な分野に絡むので推進会議の進捗管理はとても膨大な量で大変だと思う。そのため、テーマや優先順位が大事になってくと思う。また、推進会議メンバーは固定しないで、このテーマに関してはこの人、といったフレキシブルな構成にはできないものか。
喜久山委員	これまでは理念的な話であったが、これからの推進に関しては具体的なアイデアが無いと推進しないと思う。推進して形になると市民にも見てもらえて理解を得て次に進むと思う。明確なビジョンを持った人物がいけないと思う。
嘉悦委員	これから実行・推進するにあたっては、人脈・経験が豊富な人がいいと思う。また、佐藤委員のおっしゃる危機管理なら、若手の経営者・実業家など、自分で生み出してきた人にでないとわからない感覚・経験が必要だと思う。
石櫃委員	P37のロードマップは、この計画の特色に関して作られたのだと思うが、中でも、市民にわかりやすいのは「文化的処方」だと思う。来年度の事業はどのような方針であるか。
事務局	文化的処方は、東京藝術大学に協力いただいて進めている。文化的処方は行政だけとするものではなく、まちづくりに携わっている地域の方々と一緒に進める事業だと思っている。例えば、地域の方々が「商店街をどのように活性化しようか」と課題を感じられているところに、東京藝術大学の先生が入って「ここに絵を描いてみようかと」といった提案をしたりして、みんなで考え進める事業であり、また、参加することで人とのつながりができる事業であると考えている。成果指標のとおり、7年間で8件を目標としており、地域・市民のやりたいという思いがあってやれる事業なので、ゆっくり丁寧に進めていきたい。
山下委員	長野県松本市で、街の中心に流れる女鳥羽川の事例がある。以前は整備されておらず水辺に降りられない状態だったが、草刈をし、マーケットを出し、アートの力で舞台芸術等を行っている。最近では、若い人ほどコミュニティへの参加の機会を求めているようで、CCC(清掃(クリーン)しながらコーヒーを飲んでコミュニケーションする)という活動がまちで起こっている。「誰かに語りたくなくなる暮らしをみんなでつくろう」というテーマを掲げ、まちの課題に対して、アートの力を借りて、みんなで楽しく課題解決を図るという場面をつくられている。民間と行政ではできることがまったく違うので、そこを整理したうえで、民間の積極的な若者にプラットフォームに参加していただけるといいのでは。また、行政の中でも、福祉等いろんなセクションの部署と横断的なプロジェクトチームをつくと推進力が上がるのではないだろうか。
浪床委員	山下委員の事例を聞いて、やっと具体的に考えられた。他の事例も聞くと具体的に考えられそう。
喜久山委員	それにあたる人も具体的に見えてくと思う。
小堀委員	熊本大学が、熊本に眠っている作品を集めて、展示や貸出をして、街なかをアートで溢れさせようという取組を行っている。肥後銀行としても何か協力できないかということで、ギャラリーをお披露目の場として提供している。そういった個々の取組を集約していくというボトムアップのやり方もあると思う。
	各委員から1年間の感想等

発言者	発言要旨
狩野委員	こどもの体験格差が大きな社会問題となっており、大人がどのような意識をもって関わるかが重要。 計画の中で1番大事だと思ったのは「経済格差や家庭の時間の制約に関わらず、すべてのこどもたちが文化芸術体験をできる」ということに尽きると思っている。 今後、具体的にどこと連携して、何をしていくのか。地域の中にこどもと関わりを持つ人がいると思うがなかなかつながりができないため、教育委員会のみならず、地域とつながっていけるといいと思う。
嘉悦委員	活動者の立場として、音楽関連の意見は吸い出せたが、例えばダンサー等、もっと幅広くいろんな人の意見を持ってこの場に来れたらよかったと思った。また、最初にお互いを知ったうえで話しをした方が活性化したかもという気持ちがあり、自己紹介・お茶会等があればよかったかもしれない。
石櫃委員	市民の文化芸術に関する一人ひとりの価値観が違う中で、1つの計画を作っていくのは難しいと感じた。また、文化施設の管理運営をする中で、いろんな事業をしているが、施設間に広がりを持たせていくことの重要性を感じた。 それぞれが素晴らしいことをされているので、プラットフォームにて市民に広げていくことが、この計画の大きな1歩だと思う。これから計画を進捗するにあたり、市民にどう理解・参加してもらうかが大事であり、これが始まりということで、これから何かの形で役に立っていけたらと思う。
山下委員	中心市街地の活性化に携わって20年以上経つが、まちをフィールドとしていろいろな人に活用してもらうために、もっとすべきことがあると学んだ。また、「アートはライフラインか」のような議論をしたことに感銘を受けている。 これからが始まりだと思うので、熊本の素晴らしい取組に参加しながら、他都市の事例を紹介しながら、これからも熊本が素晴らしいまちになるように、引き続き活動していきたい。
浪床委員	豊かな市民生活・まちづくりに、ハードだけでなく文化芸術といったソフト面から市が取り組んでいるのがとても良いことだと思った。若い人がまちづくりに関わるきっかけになるように思う。 計画は、0ベースで考えないといけない難しさがあった。具体的な事例があった方が議論できたかもしれないと思う一方で、0ベースだったからこそいろんな方の意見を聞けて発見があったのかもしれないと思う。 市民をこの計画にどうまきこんでいくかがこれからの大事なポイントであるため、力を入れてほしい。
佐藤委員	全国でいろいろ均一化して面白味に欠ける中、最終的にその都市らしさ、面白味が出るのが文化芸術だと思っており、熊本らしさの追求であると思っている。 あまりにも表現に携わる人が経済的に苦しい現状であるため、もう少し稼げるように個人的にお手伝いしたい。
小堀委員	熊本の個性は加藤・細川以来の歴史があり、旧家などもたくさんあるように、他都市と違う特色がある。歴史的・文化的に蓄積されたものがたくさんあるので有効活用する必要があると思う。 県の文化協会に携わっているが、会員の高齢化や担い手不足が喫緊の課題となっているので、こどもの育成は重要なポイントであると思う。しかし、例えば、熊本は邦楽をしているこどもが多いなど、土壌はあると思うので、水をまき肥料を与えてもっと育てることが可能であるように思う。この計画が意味のあるものになり、熊本の文化振興につながるといい。
西島委員	若い頃「本当の歴史とは庶民の積み重ね」と教えられた。生活・暮らしの中の文化芸術が人々に幸せや生きがいを与えていると、この歳になって感じる。この計画の中で文化協会についても触れられているが、一般市民の観点からも、これから動向を見ていきたい。
喜久山委員	まったく違う分野の人や価値観の違う人の話を聞くなど、ゆっくり進めてきたのはこれまでの自分の経験と全然違うなと感じている。もどかしいとも思ったが、この先推進するうえでは、多方面から考えられたこの基盤が重要で、可能性が広がるであろう。 今後の推進は人がエネルギーを持ってないと動かない。体制・実動が今後の課題になると思う。